



重體の弟に

鹿戸生

弟よ苦しからずナ
引續く高熱に憐れまされつ
遂に意識を失ふとぞる弟
定めし苦しからずナ
ぐつたり仰向けに寝し
てしまつた弟よ
僕に弟に何と言葉をかけ
てよいのか
何と云つて慰めていいの
かわからない

暫し黙つて、
裏板を見つめる私は悲し
されど囁く小鳥の音を
唯一の慰みとして
感謝しつつ夕餉をたへぬ
シトシト……
春雨ぞ、ぐくぐく
雨音寂しく聞えつ、
白きしどねにうち臥して
唯黙しつ、
一すじに祈り捧げん
涙をらに
神よ慈やし給ひ

赤鞘安兵衛
東京 桃川燕二演
村田月光書

「何だ小僧の来るどころ申すぞ……安之助で
「何云つてる安之助……」と腕と子供の顔
「私に乞食ではないを眺め入つて居た。仰も此
「殿様に頼むところがあるのた武家は誰でございませ
のだから……」夫れが其の、越後新田藩御足りの
の錢でも呉れと云ふのなら那奉行高五郎中山安左
「は、然うぢやないの門……即ち中山安太郎の
だ」夫れを聞いた武家は、安之助の爲めには現
「是れ……新機な小作在の祖父でございませ、最
小言申すな、何か願ひ早年期江戸表参勤交代の戻
があるぞ申して居るではな……全體ならば越後の新機
いか、コレ……小作、是れ田からは會津へで江戸表

「お前は苦しうも苦まん
から一生懸命で看護して
頂ひから幸ひだ
エス様はあの十字架の苦
しみのお母さまのマ
リヤの姿を見ながら手を
ふれる事が出来なかつた
」と胸を打つた
弟もわかつたど見え、静
かに目を閉し
た。神よ苦しめる弟を慈
み給ひ

病床の春愁
感なる子は
神の聖言に反いて
又と病魔の禽となつた
嗚呼無智なる子よ

病室の店を手傳ふ此頃
のそろに進む夕陽
疲れたる足で投げ出す床
の上増す健康を一人微笑
ひ

「早く退寮つて本日出席
で大層人立して居る」
「孫助、
立場の端に腰を云ふなら
俺に向ははなせ成らな
「何故」と言つて
「天孝子を憐れむ……
現在父の安太郎がしやくの
差込みに悩み、其くすりを
買ひに出た矢先、同じしやく
の病が立所に平癒したる
奇症のくすりの効きめ、其
安之助ならずとも其のくす
りを飲んだら、今其のくす
り一粒手取りなると父に
服させたならば、怒ら彼の
恨みせ去らう、御武家に願
つて少しなりと悪んで頂戴
なさい」と其處へ飛出した
下さい」五文の鳥目手
の郎めことを思はぬ連は



月光

病み疲れた我魂よ
隙間流るる風にも
かそかなる魂は喘ぐ
た、神よ、みまなはせ給
ひ
くるしみ憐れむ我魂を
今宵も
ひねもす此離れ舎に
一人寝るぞ寂しき
シトシト……
春雨の遠くトタンをうつ
外はたど静かなる春の宵
我が胸に湧き出づ
若し長夜寂寥ぞ

病む友は我と同じくいつ
しかに俳句や歌をおぼひ
初めし
つゝ心静かに今宵も祈り
キリストの機軸雑語を肺
療院に送りし後の必安ひ

明日 六月 新月
吉凶 七月 二日
一白の人 この「争」を生
する時は永く解決せざるべ
し
二黒の人 進退節度を
誤らざれば平和に通退を見
べし
三碧の人 一守一守の
運命不定の日なり一守一守

「ハムよりうまい
監豚販賣
田町 三三三屋

木之美白粉

最高の白粉

どなたの肌をも自然的に美化し、
氣品と艶麗に満ちた化粧のする
ホシ美白粉こそ又、絶対無敵にて、
衛生上よりも、最高の白粉と賞美
さる、ものであります。



入院 隨意 (自費の便あり)
外科 光線専門科
上田外科醫院
病室 完備
電話 一二九

無料 検眼 TOKIWAYA
皆様の御眼に
ピッタリ合つた
眼鏡は……
専門醫師の
検眼で……
正確で工合よい
時計は……
是非當店にて……
常盤屋時計店 電話三三九

良品廉賣に勝る
商略なし
磐城セメント特約代理店
釜屋商店
金物問屋
和洋銅鐵
電話九番一三九番
電話九番一〇九五番

平新川町十九
木村病院
電話 一六四
産科 院長 木村寅次郎
婦人科 女醫 木村コウ
内臓外科 醫學士 松永憲一
整形外科 醫學士 萩原駿二
藥局 東京 藥學士

七月廿日より
廿七日まで
最新品の廉價提供の!!! 七日間
夏衣大廉賣
十數年以來の新安値夏の好適品を
豊富取揃へて御用命の程を願上ま
す!!!
◆實用特價品
手拭巾形 五十錢 時、白大山綿 五十錢
東京巾形 八十五錢 極一友仙 壹圓
松山紺緋 一圓五十錢 一友仙 壹圓
着尺モス 二圓五十錢 白キヤラコ足袋二十錢
博多式單帶 壹圓
◆絹布大特價
本館仙三圓五十錢 洋傘
絹羽織 四圓五十錢
絹九帶 八圓
錦紗兵兒 五圓
外二
絹小紋 明石
絹羽織 各種 特價提供
三井吳服店 日傘

實行豫算と 小名濱港工事

工事費使途計劃中 總費九萬五千圓 小名濱港五年修築費は右四萬五千圓約約百...

武德殿 廿日發會式

内郷村の 石城郡内郷村有志五十餘名...

平町果實店に 平窪桃出廻る

例年にならぬ安値 平町の果實店の店頭には既に二十一日午後七時...

日曜列車 避暑客のため

避暑客のため 石城郡内郷村の避暑客が...

平町賭博 又た賭博

平町に賭博 平町一丁目料理店作山カネ...

平町出軍 出征軍人

出征軍人 五十圓下賜 平町町長尾崎君居候陸軍...

平町街路に 十一才の捨子

之の不景氣の爲め 平町で保護中また逃げる...

平町街路に 懸賞募集

田町の盗賊 廿八日發表 平町町長尾崎君分府が...

平町街路に 渡邊村で

小兒の溺死 石城郡渡邊村大字上釜戸...

失業者群なす 平町失業者調査

暗い常磐の天地 炭界の大恐慌は常磐の天地間隔く三萬餘の失業者...

青年團の使命 大河原茂平

農村問題の解決 農村問題に於ける政治的解決...

水不足で使へぬ 磐中のプール

つひに寶の持腐れ 平町町立磐城中学校プール...

平町街路に 家賃不拂

平町に説諭願 平町町長尾崎君に...

平町街路に 同御中暑

浪界女流團演大會 久々に目見得...

平町街路に 同御中暑

浪界女流團演大會 久々に目見得...

平町街路に 同御中暑

浪界女流團演大會 久々に目見得...

吉田眼科病院 平町紺屋町

浪界女流團演大會 廣香菊嬢 廣若菊嬢

カク石 賣特念記 7月22日ヨリ8月10日